

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
教科書	探求 現代の国語 (桐原書店)						
副教材	ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版 (東京書籍) チャート式 基礎学習システム 必修現代文 四訂版 (数研出版) チャート式 基礎学習システム 必修現代文演習ノート 四訂版 (数研出版) カラー版新国語便覧 新版六訂 (第一学習社)						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
主な 評価 方法	- 授業中の学習態度 - 確認テスト、小テスト - 課題への取り組み状況 - 定期考査		- 授業中の学習態度 - 確認テスト、小テスト - レポート課題 - 定期考査		- 授業中の学習態度 - 自己評価、振り返りシート - グループ活動や発表の状況 - パフォーマンス課題 - 演習ノート提出		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	体験と思索Ⅰ ふしぎと人生 読書は必要か？ 評論Ⅰ 言葉の力	a: 語感を磨き、語彙を豊かにし、多様な言葉を活用している。 b: 話すこと・聞くことにおいて、自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫している。 話すこと・聞くことにおいて、話し言葉の特徴を踏まえて、話し相手の理解が得られるように表現を工夫している。 話すこと・聞くことにおいて、本文からの情報を整理して、自分の考えを広げたり深めたりしている。 書くことにおいて、自分の考えや事柄が的確に伝わるように工夫している。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 中間考査	レポート 課題 中間考査	グループ 活動と発 表 振り返り シート

1 学 期 後 半	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 読む 実社会Ⅰ 文化祭を企画する	a: 個別の情報と一般化された情報との関係について理解し、活用できている。 b: 話すこと・聞くことにおいて、目的や場に応じて伝え合う内容を検討している。 話すこと・聞くことにおいて、論点を共有し、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 書くことにおいて、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 期末考査	レポート 課題 期末考査	グループ 活動と発表 振り返り シート
2 学 期 前 半	評論Ⅱ 読む 実社会Ⅰ 問いの立て方とオリジナリティ 評論Ⅲ 遅れてきた「私」	a: 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解し、活用できている。 b: 話すこと・聞くことにおいて、目的や場に応じて伝え合う内容を検討している。 書くことにおいて、目的や意図に応じて、自分の文章の特長や課題を捉え直そうとしている。 読むことにおいて、書き手の意図を解釈したり、構成や展開について評価したりしながら、自分の考えを深めている。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 中間考査	レポート 課題 中間考査	グループ 活動と発表 振り返り シート
2 学 期 後 半	体験と思索Ⅱ アリュージョン、老兵の夢と闇 評論Ⅳ わかれようとする姿勢 実社会Ⅱ 全国高校生「好きな漢字」総選挙	a: 語感を磨き、語彙を豊かにし、多様な言葉を活用している。 b: 書くことにおいて、目的や意図に応じて、適切な題材を集め、伝えたいことを明確にしている。 書くことにおいて、考えや事柄が的確に伝わるよう、表現の仕方を工夫している。 読むことにおいて、内容や構成、展開についての叙述を的確に捉え、文章を把握しようとしている。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 期末考査	レポート 課題 期末考査	グループ 活動と発表 振り返り シート
3 学 期	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 見解を比べる 生物多様性と科学 ヒトの「進化」と普遍性 実社会Ⅲ 納税は義務か	a: 主張と根拠など情報と情報との関係について理解して、意見を述べている。 b: 書くことにおいて、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 書くことにおいて、目的や意図に応じて、自分の文章の特長や課題を捉え直している。 読むことにおいて、内容や構成、展開についての叙述を的確に捉え、文章を把握しようとしている。 読むことにおいて、書き手の意図を解釈したり、構成や展開について評価したりしながら、自分の考えを深めている。 c: 意欲的に活動に取り組もうとしている。	授業課題 学年末考査	レポート 課題 学年末考査	グループ 活動と発表 振り返り シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	3	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
教科書	言語文化（数研出版）						
副教材	チャート式基礎学習システム 必修古文 四訂版（数研出版） チャート式基礎学習システム 必修現代文 四訂版（数研出版） チャート式基礎学習システム 必修現代文演習ノート 四訂版（数研出版） チャート式基礎学習システム 必修漢文 四訂版（数研出版） 完全マスター 古典文法 改訂三版（第一学習社） 完全マスター 古典文法準拠ノート基礎固め 新版（第一学習社） 基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版（桐原書店） 基礎からのジャンプアップノート 漢文句法演習ドリル 改訂版（旺文社） カラー版 新国語便覧 新版六訂（第一学習社） ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版（東京書籍）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		「書くこと」「読むこと」の二つの領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
主な 評価 方法	- 授業中の学習態度 - 確認テスト、小テスト - 課題への取り組み状況 - 定期考査		- 授業中の学習態度 - 確認テスト、小テスト - 課題への取り組み状況 - レポート課題 - 定期考査		- 授業中の学習態度 - 自己評価、振り返りシート - グループ活動や発表の状況		

※上記に示す観点に基づいて、各観点を評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	児のそら寝 絵仏師良秀 なよ竹のかぐや姫 神無月のころ ある人、弓射ることを習ふに	a 知識・技能において、古典を読むために必要な文語の決まりや古典特有の表現について理解している。 b 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に捉えている。 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 c 徒然草の教科書掲載以外の段も読む。	授業課題 中間考査	確認テスト・小テスト 中間考査	グループ活動 振り返りシート
1 学 期 後 半	漢文入門 漁夫之利 羅生門	a 知識・技能において、漢文訓読の決まり、漢文特有の表現について理解している。 b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 読むことにおいて、作品の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c 羅生門と今昔物語集の読み比べを積極的に行う。	授業課題 期末考査	レポート課題 期末考査	グループ活動と発表 振り返りシート
2 学 期 前 半	徒然草 狐虎の威を借る 管鮑の交はり 鶏口牛後 短歌・俳句 伊勢物語	a 知識・技能において、作品の歴史的背景を理解する。 b 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 読むことにおいて、文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めている。 読むことにおいて、作品や内容の解釈を踏まえ、自分の物の見方、考え方を深めている。 c 情景や心情の描写を取り入れて、自分でも短歌を詠んでみる。	授業課題 中間考査	確認テスト・小テスト 中間考査	グループ活動 振り返りシート
2 学 期 後 半	枕草子 漢詩	a 知識・技能において、漢詩特有の決まりを理解し、内容の解釈を深めている。 b 書くことにおいて、適切な題材を決め、表現したいことを明確にしている。 読むことにおいて、文章の構成や展開、表現の仕	授業課題 中間考査	レポート課題 期末考査	グループ活動と発表 振り返り

	土佐日記	方、表現の特色について評価している。 c 枕草子の教科書掲載以外の段についても読む。	期末考查	期末考查	シート
3 学 期	三大歌集 平家物語 山月記 論語 雑説	a 知識・技能において、三大歌集の比較をしながら、それぞれの特徴を捉えている。 b 読むことにおいて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 読むことにおいて、作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 読むことにおいて、本文に表れている物の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 c 山月記と人虎伝の読み比べを積極的に行う。	授業課題 学年末考查	レポート 課題 学年末考查	グループ 活動と発 表 振り返り シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 英語コース、文系 (歴史探究選択者) 第2学年理系
科目の 概要と 到達目標	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深める。						
教科書	高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）						
副教材	新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院）						
評価の 観点・ 内容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。 ・調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。		・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察しているか。 ・地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしているか。		・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしているか。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについて自覚しているか。		
主な 評価 方法	・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み ・定期考査		・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み ・定期考査		・授業中の学習態度 ・振り返りシート ・学習課題への取り組み状況		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と 時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める 現代世界 1節 現代社会の国家と 領域 2節 グローバル化する 世界	a: 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 b: 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ワークの 指定問題 定期考查	ワークの 指定問題 定期考查	授業中の 学習態度 振り返り シート 学習課題 への取り 組み状況
1 学 期 後 半	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と 国際理解 1節 世界の地形と人々の 生活 2節 世界の気候と人々の 生活	a: 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 b: 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ワークの 指定問題 定期考查	ワークの 指定問題 定期考查	授業中の 学習態度 振り返り シート 学習課題 への取り 組み状況
2 学 期 前 半	3節 世界の言語・宗教と 人々の生活 4節 歴史的背景と人々の 生活 5節 世界の産業と人々の 生活	a: 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 b: 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ワークの 指定問題 定期考查	ワークの 指定問題 定期考查	授業中の 学習態度 振り返り シート 学習課題 への取り 組み状況
2 学 期 後 半	第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う 地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー 問題 4節 人口問題	a: 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることを理解している。 b: 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・	ワークの 指定問題 定期考查	ワークの 指定問題 定期考查	授業中の 学習態度 振り返り シート

	5節 食糧問題 6節 都市・居住問題	食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。			学習課題への取り組み状況
3学期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	a: 我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 b: 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c: 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ワークの指定問題 定期考査	ワークの指定問題 定期考査	授業中の学習態度 振り返りシート 学習課題への取り組み状況

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 英語コース、文系 (地理探究選択)
科目の 概要と 到達目標	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。						
教科書	高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）						
副教材	新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院）						
評価の 観点・ 内容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。 ・調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。		・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察しているか。 ・地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしているか。		・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしているか。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚しているか。		
主な 評価 方法	・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み ・定期考査		・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み ・定期考査		・授業中の学習態度 ・振り返りシート ・学習課題への取り組み状況		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と 時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める 現代世界 1節 現代社会の国家と 領域 2節 グローバル化する 世界	a: 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 b: 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ワークの 指定問題 定期考査	ワークの 指定問題 定期考査	授業中の 学習態度 振り返り シート 学習課題 への取り 組み状況
	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と 国際理解 1節 世界の地形と人々の 生活 2節 世界の気候と人々の 生活	a: 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 b: 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ワークの 指定問題 定期考査	ワークの 指定問題 定期考査	授業中の 学習態度 振り返り シート 学習課題 への取り 組み状況
1 学 期 後 半	3節 世界の言語・宗教と 人々の生活 4節 歴史的背景と人々の 生活 5節 世界の産業と人々の 生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う 地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー 問題 4節 人口問題 5節 食糧問題 6節 都市・居住問題	a: 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることを理解している。 b: 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	ワークの 指定問題 定期考査	ワークの 指定問題 定期考査	授業中の 学習態度 振り返り シート 学習課題 への取り 組み状況

2 学 期 前 半	第3部 持続可能な地域づくりと 私たち	a: 我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	ワークの 指定問題	ワークの 指定問題	授業中の 学習態度
	第1章 自然環境と防災		定期考査	定期考査	振り返り シート
	1節 日本の自然環境				
	2節 地震・津波と防災	b: 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。			学習課題 への取り 組み状況
	3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	c: 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとしている。			
	第2章 生活圏調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と 地域の展望				

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 目標	・社会的な事象の歴史的見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ・近現代の歴史に関わる諸事象について、日本を含む世界を相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解する。 ・多様な観点に着目し、多面的・多角的に近現代の歴史を考察する力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。						
教科書	詳述歴史総合（実教出版）						
副教材	新詳歴史総合（浜島書店） 詳述歴史総合 徹底整理演習ノート 高校生のためのふるさと富山（富山県教育委員会）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	・近現代の歴史に関する諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視点から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているか。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめているか。		・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを利用して多面的・多角的に考察しているか。 ・歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想し、それらをもとに効果的に説明したり、議論したりしているか。		・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしているか。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚しているか。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・学習課題への取り組み状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・学習課題への取り組み状況 ・定期考査		・自己評価、振り返りシート ・レポート課題 ・グループ活動や発表の状況 ・学習課題への取り組み状況		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知（a）	思（b）	主（c）
1 学期 前半	歴史の扉 第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	a：身近な諸事象が、日本や世界の歴史とつながっていることを理解している。 アジアや日本と欧米諸国との貿易などを基に、18世紀のアジアの経済・社会やヨーロッパの近代市民社会について理解している。 b：18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済に関する資料などを活用し、歴史の変化や日本と世界の関連性について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：前近代の歴史の変化に関わる資料などを読み取ったり、まとめたり、また複数の資料を関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったことなどを主体的に見出している。	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	グループ活動と発表 レポート課題 振り返りシート
1 学期 後半	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化	a：産業革命や工業化の拡大、日本の開国や憲法制定などを基に、18世紀以降の欧米の市民社会や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 b：産業革命、国民国家の形成、日本や中国の開港などの背景や影響に着目し、主題を設定し、アジア諸国や欧米諸国の動向を比較したり関連付けたりするなどして、政治や社会の変容、アジア諸国と欧米諸国の関係の変容などを多面的・多角的に考察、表現している。 c：近代ヨーロッパの歴史の変化や、19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	小テスト 問題集の指定問題 期末考査	小テスト 問題集の指定問題 期末考査	グループ活動と発表 レポート課題 振り返りシート
2 学期 前半	第4章 帝国主義の時代 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	a：列強の植民地形成、日本の対外戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解できる。また、第一次世界大戦前後の世界情勢を基に国際体制や大衆社会の形成について理解している。 b：帝国主義政策が与えた様々な影響や、第一次世界大戦前後の社会情勢の変化などに着目して、主題を設定し、帝国主義政策の特徴や国際関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c：19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史に変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	小テスト 問題集の指定問題 中間考査	グループ活動と発表 レポート課題 振り返りシート

2 学 期 後 半	第 6 章 経 済 危 機 と 第二次世界大戦 第 3 編 グローバル化と 私たち 第 7 章 冷戦と脱植民地	a : 世界恐慌以降の国際協調体制の動揺や第二次世界大戦前後の社会情勢の変化、新たな対立構造成立などを基に国際社会の変容について理解している。 b : 世界恐慌以降の国際協調体制の動揺や第二次世界大戦前後の社会情勢の変化、新たな対立構造成立などに着目して、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦勃発の要因、大戦後の国際社会の変容について、多面的・多角的に考察し表現している。 c : 第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化や 1950 年～1970 年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	グループ 活動と発 表 レポート 課題 振り返り シート
3 学 期	第 8 章 多極化する世界 第 9 章 グローバル化と 現代世界	a : 石油危機以降の世界の経済や政治情勢、冷戦の終結や地域統合の拡大と変容などを基に、国際社会の変容と課題について理解している。 b : 石油危機以降の世界の経済や政治情勢、冷戦の終結や地域統合の拡大と変容などに着目して、国際経済のグローバル化や冷戦終結後の国際政治の特徴、日本が果たしている役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c : 1970 年代以降の世界の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	グループ 活動と発 表 レポート 課題 振り返り シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	公民	科目名	公共	単位数	3	対象学年 コース・類型	第2学年 英語コース・文系
科目の 概要と 到達目標	・社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 ・現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察する力を身につける。						
教科書	新版 公共 (数研出版)						
副教材	最新図説 公共 (浜島書店) 新公共研究ノート 基礎力定着と充実のための問題集 (啓隆社)						
評価の 観点・ 内容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。		現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。		よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。		
主な 評価 方法	・授業プリント ・授業中の発言・発表 ・定期考査 ・整理ノートの取り組み		・授業中の発言・発表 ・授業プリント ・定期考査		・ニュースレポート ・整理ノートの取り組み ・授業中の学習態度		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期 前 半	第1章 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3章 公共的な空間における基本原理	a：青年期の特徴および古代ギリシアや中国の思想家の思想や三大宗教の内容が理解できている。法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。 b：青年期の特徴やアイデンティティの確立の視点から、自己形成の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。民主政治における国家と個人のあり方が考察できている。 c：先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にできることはないか主体的に追究できている。民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査 整理ノートの取り組み	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート 整理ノートの取り組み
1 学 期 後 半	第1章 第3節 日本人としての自覚 第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	a：民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。 b：民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。 c：議会の見学や住民運動・消費者運動など、民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査 整理ノートの取り組み	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート 整理ノートの取り組み
2 学 期 前 半	第2章 第1節 西洋近現代の思想 1 近代科学の考え方 2 人間の尊厳と幸福 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	a：近世・近代の世界の思想家の思想内容が理解できている。市場経済のメカニズムや金融・財政のしくみを理解し、その指標の動向を読み解くことができている。 b：先人の生き方を通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方が考察できている。不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できている。 c：選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。市場機構だけでは解決できない経済的課題も多く、市場機構を修正している具体例を指摘でき自らの生活と結び付けて経済と接することができている。	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査 整理ノートの取り組み	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート 整理ノートの取り組み
2 学 期 後 半	第2章 第1節 西洋近現代の思想 3 現代の思想 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	a：産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 b：経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。先人の生き方を通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方が考察できている。 c：経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査 整理ノートの取り組み	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート 整理ノートの取り組み

3 学 期	第2章 第2節 現代の諸課題と倫理 第6章 国際社会の動向と日本の役割	a：地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。国際法の意義や現代の世界の紛争について理解できている。 b：公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。 c：選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。国際社会の課題について主体的に追究できている。	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査 整理ノートの取り組み	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート 整理ノートの取り組み
-------------	--	--	---	-------------------------------------	--

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 理系
科目の 概要と 到達目標	・社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 ・現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察する力を身につける。						
教科書	新版 公共 (数研出版)						
副教材	最新図説 公共 (浜島書店)						
評価の 観点・ 内容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。		現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。		よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。		
主な 評価 方法	・授業プリント ・授業中の発言・発表 ・定期考査		・授業プリント ・授業中の発言・発表 ・定期考査		・ニュースレポート ・授業中の学習態度		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1 学期 前半	第3章 公共的な空間における基本原理	a：法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。 b：民主政治における国家と個人のあり方が考察できている。 c：民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート
1 学期 後半	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	a：民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。青年期の特徴および古代ギリシアや中国の思想家の思想や三大宗教の内容が理解できている。近世・近代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 b：民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。青年期の特徴やアイデンティティの確立の視点から、自己形成の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。先人の生き方を通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方が考察できている。 c：議会の見学や住民運動・消費者運動など、民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にできることはないか主体的に追究できている。選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート
2 学期 前半	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	a：市場経済のメカニズムや金融・財政のしくみを理解し、その指標の動向を読み解くことができている。 b：不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できている。 c：市場機構だけでは解決できない経済的課題も多く、市場機構を修正している具体例を指摘でき自らの生活と結び付けて経済と接することができている。	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート
2 学期 後半	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	a：産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。 b：経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。 c：経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業プリント 授業中の発言・発表 定期考査	授業中の学習態度 ニュースレポート

3 学 期	第6章 国際社会の動向と日本の 役割	a : 国際法の意義や現代の世界の紛争について理解 できている。 b : 国際問題について自分なりの意見を持ち、他者 に説明できている。 c : 国際社会の課題について主体的に追究できている。	授業プリント 授業中の 発言・発表 定期考査	授業プリント 授業中の 発言・発表 定期考査	授業中の 学習態度 ニュース レポート
-------------	--------------------------	--	---	---	----------------------------------

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、データの分析について、概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能の習熟や、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指す。また、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。						
教科書	数学 I (啓林館)						
副教材	アドバンス α 数学 I + A (啓林館) Focus Gold Smart 数学 I + A (啓林館)						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。また、事象を数式化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付けているか。		数学的な活動を通して、数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、及びデータの分析における数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているか。		数学的な活動を通して、数と式、2次関数、集合と命題、図形と計量、及びデータの分析における考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているか。		
主 な 評 価 方 法	- 授業中の学習態度 - F T、宿題テスト - 週末演習課題 - 定期考査		- 授業中の学習態度 - 宿題テスト、実力テスト - 週末演習課題、ワークシート - 定期考査		- 授業中の学習態度、活動状況 - 振り返りシート - 自己評価シート - アドバンス α 指定問題 - 週末演習課題、ワークシート		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	第1章 数と式 第1節 多項式 第2節 実 数	a: 多項式、実数、1 次不等式について理解し、基本的な知識を身に付けている。多項式の展開や因数分解など多項式の基礎的な計算をしたり、無理数の計算ができる。また、1 次不等式や連立1 次不等式を解いたり、複雑な多項式の計算や無理数の計算ができる。 b: 数の範囲を拡張することの意味を理解するとともに、1 次不等式を的確に利用することができる。 c: 多項式、実数、1 次不等式に関心をもち、その有用性を認識し、それらを問題の解決に活用しようとする。	・授業態度 ・FT ・週末演習課題 ・中間考査	・授業態度 ・週末演習課題 ・ワークシート ・中間考査	・授業態度 ・アドバンスα指定問題 ・振り返りシート ・自己評価シート
1 学 期 後 半	第3節 1 次不等式 第2章 2 次関数 第1節 関数とグラフ 第2節 2 次関数の最大・最小 第3節 2 次関数と方程式・不等式	a: 2 次関数とそのグラフおよび関数の値の変化について基礎的な知識を身に付け、関数を用いて数量の変化を表現し、関数の値の変化を調べることができる。判別式を利用して2 次方程式の解の個数を求めることができる。2 次関数と2 次方程式・2 次不等式を関連付けて理解している。 b: 表、式、グラフを関連付けながら変化の様子をとらえることができる。 c: 2 次関数とそのグラフや値の変化に関心をもち、調べようとする。関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、2 次関数を活用しようとする。	・授業態度 ・FT ・週末演習課題 ・期末考査	・授業態度 ・週末演習課題 ・ワークシート ・実力テスト ・期末考査	・授業態度 ・アドバンスα指定問題 ・振り返りシート ・自己評価シート
2 学 期 前 半	第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 三角比の拡張 第3節 正弦定理と余弦定理 第4節 図形の計量	a: 三角比や、線分の長さや角の大きさを求めることができる。具体的な事象の数量の関係を、三角比などを用いて表現し、様々な図形の計量を行うことができる。 b: 三角比の考えを用いて、線分の長さや角の大きさなどを用いた図形の計量を行う過程を考察することができる。 c: 線分の長さや角の大きさなどを用いた計量の有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。	授業態度 ・FT ・週末演習課題 ・宿題テスト ・中間考査	・授業態度 ・週末演習課題 ・ワークシート ・宿題テスト ・中間考査	・授業態度 ・アドバンスα指定問題 ・振り返りシート ・自己評価シート
2 学 期 後 半	第3章 集合と命題 第1節 集 合 第2節 命題と証明 第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析 第2節 統計的探究プロセス	a: 集合と命題について基本的な知識を身に付け、記号や必要条件、十分条件などの用語の意味を理解している。また、集合の考えを命題の考察に生かし、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶、背理法などの数学的な論理を活用することができる。四分位数、分散、標準偏差、散布図と相関係数などの統計の用語の意味を理解している。また、データを分析してその傾向を的確にとらえ説明することができる。 b: 集合を用いて命題の真偽について判断することができる。データを整理した表や図から傾向を把握することができる。また、仮説検定の考え方において、仮説の妥当性を判断することができる。 c: 集合と命題の問題に意欲的に取り組み、事象を論理的に表現しようとする。様々な事象から見出される確率や統計に関するデータの分析に関心をもち、調べようとする。	・授業態度 ・FT ・週末演習課題 ・期末考査	・授業態度 ・週末演習課題 ・ワークシート ・実力テスト ・期末考査	・授業態度 ・アドバンスα指定問題 ・振り返りシート ・自己評価シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 理系
科目の 概要と 到達目標	物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。						
教科書	新編 物理基礎（数研出版）						
副教材	新課程 リードα物理基礎・物理（数研出版） 新課程 物理基礎 学習ノート（数研出版） 高等学校 物理実験テキスト（富山県理化学会）						
評価の 観点・ 内容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	日常生活や社会と関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを行うことを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけているか。		物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解析、法則性の導出などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力が身につけているか。		物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養われているか。		
主な 評価 方法	・授業中の学習態度 ・小テスト、課題テスト ・課題への取り組み状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・小テスト、課題テスト ・レポート課題 ・グループ活動や発表の状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・自己評価 ・グループ活動や発表の状況 ・レポート課題 ・課題への取り組み状況		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	物理量の扱い方 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・落体の運動	a: 物理量の表し方について理解している。 物体の運動を表すには向きが必要であり、スカラー量とベクトル量の違いを理解している。等加速度直線運動を表す式を理解し、式やグラフを正しく運用することができる。 b: 速度や加速度の意味・表し方、またこれらがグラフ上でどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 c: 日常の運動から変位、速度、加速度に興味を持ちその意味や使い方を理解しようとしている。	基本問題 演習 小テスト	応用問題 演習 小テスト	グループ 活動と発表 演習ノート の提出
	第2章 運動の法則 ・力とそのはたらき ・力のつりあい	a: 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。 b: つりあいの2力と作用反作用の2力の違いを理解し、説明することができる。 c: 力が合成・分解してあらわされることに興味をもち、「力がつりあう」とはどういうことか理解しようとしている。	基本問題 演習 小テスト 中間考査	応用問題 演習 小テスト 中間考査	グループ 活動と発表 演習ノート の提出 振り返り シート
1 学 期 後 半	・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力	a: 物体が力を受けるとき、運動状態はどのようなになるか理解している。さまざまな運動をしている物体について、運動方程式をたてて考えることができる。 b: 運動の3法則が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 c: 物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。	基本問題 演習 小テスト	応用問題 演習 小テスト 実験テキスト	グループ 活動と発表 演習ノート の提出 実験テキスト
	第3章 仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存	a: 仕事とエネルギーの関係について理解している。さまざまな運動について力学的エネルギー保存則を用いることができる。力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる。 b: 力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギーと位置エネルギーの変化のようすを説明できる。 c: 力学的エネルギー保存則について興味・関心をもち、理解しようとしている。	基本問題 演習 小テスト 期末考査	応用問題 演習 小テスト 期末考査	グループ 活動と発表 演習ノート の提出 振り返り シート
2 学 期 前 半	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー ・熱と物質の状態 ・熱と仕事	a: 熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 b: 温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 c: 熱に関わる現象について興味・関心をもち、理解しようとしている。	基本問題 演習 小テスト 課題テスト	応用問題 演習 小テスト 課題テスト	グループ 活動と発表 演習ノート の提出 振り返り シート

	第3編 波 第1章 波の性質 ・波と媒質の運動 ・重ね合わせの原理 第2章 音 ・音の性質 ・発音体の振動と共鳴・共振	a: 波の発生原理や基本事項を理解している。定在波が生じるしくみを理解している。弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 b: 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。音を特徴づける3つの要素について説明できる。発音体の振動に関する物理量の関係についてこれまで学んだ知識を用いて類推できる。 c: 身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。	基本問題 演習 小テスト	応用問題 演習 小テスト 実験テキスト	グループ 活動と発表 演習ノート の提出 実験テキスト
	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 ・電流と磁場 ・交流と電磁波	a: 物体の帯電するしくみを理解している。オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基本、ジュールの法則について理解している。電磁誘導、交流電圧の基礎について理解している。 b: 電気回路における、接続ごとの電流、電圧の大きさについて適切に理解しており、説明できる。電流と磁場の関係について説明できる。直流と交流の違いを理解しており、説明することができる。 c: 電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなかについて、主体的に考えることができる。直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。	基本問題 演習 小テスト	応用問題 演習 小テスト	グループ 活動と発表 演習ノート の提出
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電	a: エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているか理解している。 b: ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 c: 自然界に存在するエネルギーの利用について興味・関心をもち、主体的に考えることができる。	演習ノート の提出 中間考査	演習ノート の提出 中間考査	振り返り シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	・自然の事物・現象を題材にして自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・実験・観察を通して化学の役割や物質の扱い方を理解し、科学的な自然観を身につける。 ・物質をよく観察することにより現代社会をより広い視点で捉え、的確な判断を下すことができるようになる。						
教科書	新編 化学基礎（数研出版）						
副教材	標準セミナー 化学基礎（第一学習社）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	化学に関する内容を理解していると同時に、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。		化学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・実験中の様子 ・確認テスト、小テスト ・定期考査		・授業中の学習態度 ・グループ活動の様子 ・確認テスト、小テスト ・実験テキスト ・定期考査		・授業中の学習態度 ・グループ活動の様子 ・自己評価、振り返りシート ・実験中の学習態度 ・実験テキスト		

※上記に示す観点に基づいて、各観点を評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、C の3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、C の3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	序編 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	a: 化学と人間生活、物質の構成について、化学と物質について理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。 b: 身近な物質や元素について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。 c: 化学と人間生活、物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 中間考査	小テスト 実験テキ スト 中間考査	実験テキ スト 振り返り シート

1 学 期 後 半	第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合	a: 物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表について理解している。また、物質と化学結合についての観察、実験などを通して、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 物質の構成について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現している。 c: 物質の構成に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 実験テキ スト 期末考查	実験テキ スト 振り返り シート
2 学 期 前 半	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	a: 物質について理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 物質と化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。 c: 物質と化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 中間考查	小テスト 実験テキ スト 中間考查	実験テキ スト 振り返り シート
2 学 期 後 半	第2章 酸と塩基の反応	a: 酸・塩基と中和について理解しているとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。 c: 酸・塩基と中和とその利用について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 実験テキ スト 期末考查	実験テキ スト 振り返り シート
3 学 期	第3章 酸化還元反応 終章 化学が拓く世界	a: 酸化と還元、化学が拓く世界について理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 酸化と還元、化学が拓く世界について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。 c: 酸化と還元、化学が拓く世界に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 学年末 考查	小テスト 実験テキ スト 学年末 考查	実験テキ スト 振り返り シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 英語コース・文系
科目の 概要と 目標	・生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。 ・生命現象を通して、日常生活や社会について考えるために必要な科学的素養を高める。 ・観察、実験を通して生物学的に探究する方法や態度を育む。						
教科書	生物基礎（東京書籍）						
副教材	新課程版25 セミナー生物基礎（第一学習社）、ESSENCE NOTE 生物基礎新課程対応（啓林館）						
評 価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な生命現象や、生物や生物を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付いているか。		生物や生物現象と生物を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得しているか。報告書の作成や発表などを通して、科学的に探究し、表現する力が養われているか。		生物や生物現象と生物を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し、解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度が養われているか。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・実験レポート課題 ・グループ活動や発表の状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・自己評価、振り返りシート ・グループ活動や発表の状況 ・実験レポート課題 ・演習ノート提出		

※上記に示す観点に基づいて、各観点を評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	1 編 生物の特徴 1 章 生物の多様性と共通性 1 節 生物の多様性 2 節 生物の共通性 3 節 細胞の特徴 2 章 生物とエネルギー 1 節 生体とATP	a: 生物の特徴について、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 身近な生物の基本的な特徴を理解するとともに、それらの観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。 c: 生物の多様性と共通性について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 中間考查	小テスト 実験テキ スト 中間考查	実験テキ スト 振り返り シート
1 学 期 後 半	2 節 生体内の化学反応 3 節 呼吸と光合成 2 編 遺伝子とのはたらき 1 章 遺伝情報とDNA 1 節 生物と遺伝子 2 節 DNAの構造 3 節 DNAの複製と分配 2 章 遺伝情報とタンパク質 1 節 タンパク質 2 節 DNAとタンパク質の合成	a: 遺伝子とその働きについて、遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 遺伝情報とDNAについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 遺伝情報とDNAに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 実験テキ スト 期末考查	実験テキ スト 振り返り シート
2 学 期 前 半	3 節 細胞分化と遺伝子 3 編 ヒトの体の調節 1 章 体内環境と情報伝達 1 節 体内環境 2 節 神経系による情報伝達 3 節 ホルモンによる情報伝達	a: 神経系と内分泌系による調節について、情報伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 情報の伝達について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 情報の伝達に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 中間考查	小テスト 実験テキ スト 中間考查	実験テキ スト 振り返り シート
2 学 期 後 半	4 節 血糖濃度の調節 3 編 ヒトの体の調節 2 章 免疫のはたらき 1 節 免疫のしくみ 2 節 免疫記憶 3 節 免疫とさまざまな疾患	a: 免疫について、免疫のはたらきの基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 免疫のはたらきについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 免疫のはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 実験テキ スト 期末考查	実験テキ スト 振り返り シート
3 学 期	4 編 生物の多様性と生態系 1 章 植生と遷移 1 節 植生とその環境 2 節 植生の遷移 3 節 遷移とバイオーム 2 章 生態系と生物の多様性 1 節 生態系における生物の多様性 2 節 生態系における生物間の関係 3 節 生態系と攪乱 4 節 生態系の保全	a: 生物の多様性と生態系について、生物の多様性と生態系の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 生物の多様性と生態系について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 生物の多様性と生態系に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 学年末 考查	小テスト 実験テキ スト 学年末 考查	実験テキ スト 振り返り シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 理系
科目の 概要と 目標	・生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。 ・生命現象を通して、日常生活や社会について考えるために必要な科学的素養を高める。 ・観察、実験を通して生物学的に探究する方法や態度を育む。						
教科書	生物基礎（東京書籍）						
副教材	センサー総合生物改訂版 3rd Edition 新課程対応（啓林館） ニューステージ生物図表（浜島書店）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な生命現象や、生物や生物を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けているか。		生物や生物現象と生物を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得しているか。報告書の作成や発表などを通して、科学的に探究し、表現する力が養われているか。		生物や生物現象と生物を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し、解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度が養われているか。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・実験レポート課題 ・グループ活動や発表の状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・自己評価、振り返りシート ・グループ活動や発表の状況 ・実験レポート課題 ・演習ノート提出		

※上記に示す観点に基づいて、各観点を評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	q 評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	1 編 生物の特徴 1 章 生物の多様性と共通性 1 節 生物の多様性 2 節 生物の共通性 3 節 細胞の特徴 2 章 生物とエネルギー 1 節 生体と ATP	a: 生物の特徴について、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 身近な生物の基本的な特徴を理解するとともに、それらの観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。 c: 生物の多様性と共通性について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 中間考查	小テスト 実験テキ スト 中間考查	実験テキ スト 振り返り シート
1 学 期 前 半	2 節 生体内の化学反応 3 節 呼吸と光合成 2 編 遺伝子とそのはたらき 1 章 遺伝情報と DNA 1 節 生物と遺伝子 2 節 DNA の構造 3 節 DNA の複製と分配 2 章 遺伝情報とタンパク質 1 節 タンパク質 2 節 DNA とタンパク質の合成	a: 遺伝子とその働きについて、遺伝情報と DNA の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 遺伝情報と DNA について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 遺伝情報と DNA に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 実験テキ スト 期末考查	実験テキ スト 振り返り シート
1 学 期 後 半	3 節 細胞分化と遺伝子 3 編 ヒトの体の調節 1 章 体内環境と情報伝達 1 節 体内環境 2 節 神経系による情報伝達 3 節 ホルモンによる情報伝達	a: 神経系と内分泌系による調節について、情報伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 情報の伝達について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 情報の伝達に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 中間考查	小テスト 実験テキ スト 中間考查	実験テキ スト 振り返り シート
1 学 期 後 半	4 節 血糖濃度の調節 3 編 ヒトの体の調節 2 章 免疫のはたらき 1 節 免疫のしくみ 2 節 免疫記憶 3 節 免疫とさまざまな疾患	a: 免疫について、免疫のはたらきの基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 免疫のはたらきについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 免疫のはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 期末考查	小テスト 実験テキ スト 期末考查	実験テキ スト 振り返り シート
2 学 期 前 半	4 編 生物の多様性と生態系 1 章 植生と遷移 1 節 植生とその環境 2 節 植生の遷移 3 節 遷移とバイオーム 2 章 生態系と生物の多様性 1 節 生態系における生物の多様性 2 節 生態系における生物間の関係 3 節 生態系と攪乱 4 節 生態系の保全	a: 生物の多様性と生態系について、生物の多様性と生態系の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 b: 生物の多様性と生態系について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 c: 生物の多様性と生態系に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	小テスト 問題集の 指定問題 学年末 考查	小テスト 実験テキ スト 学年末 考查	実験テキ スト 振り返り シート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。						
教科書	高等学校 地学基礎 (数研出版)						
副教材	高等学校 地学基礎 準拠 サポートノート (数研出版) 新課程 リードα 地学基礎 (数研出版)						
	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
評価 の 観 点 ・ 内 容	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境についての観察、実験などを行うことを通して、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解しているか。科学的に探究するための観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けているか。		地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得しているか。報告書の作成や発表などを通して、科学的に探究し、表現する力が養われているか。		地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し、解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われているか。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・課題への取り組み状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・レポート課題 ・グループ活動や発表の状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・自己評価、振り返りシート ・グループ活動や発表の状況 ・レポート課題 ・演習ノート提出		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、C の3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、C の3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第1節 地球の形と大きさ 第2節 地球の構造	a：エラトステネスが地球の大きさを測定した方法を理解する。緯度差1°の経線弧の長さと同軸対称体の形状との関係を理解する。地球表面の凹凸の分布についての特徴を理解する。地球内部の層構造を知り、状態や構成物質の違いを理解する。地球内部は構成物質の違いから、地殻・マントル・核に分けられること、変形のしやすさによる違いから、リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。 b：エラトステネスが地球の大きさを測定した方法について説明できる。地球が赤道方向に膨らんだ回転対称体である根拠を説明できる。地球内部の層構造を、構成物質と変形のしやすさのそれぞれの観点から説明できる。地球内部の物質に流動性があったとすると、密度の違いで層構造ができることに気づくことができる。 c：地球の形や大きさが測定されてきた歴史に興味をもち、積極的に学習に取り組める。地球内部の構造やその要因・発見の過程に興味をもち、積極的に学習に取り組める。	小テスト 問題集の 指定課題 中間考査	小テスト レポート 課題 中間考査	グループ活動発表 振り返りシート
	第2章 プレーートの運動 第1節 プレートテクトニクスと地殻変動 第2節 プレーートの運動のしかた	a：プレートの特徴と運動について理解する。プレート境界では大地形や地質構造が形成されることを理解する。プレート境界やマグマの周囲で変成作用が生じることを理解する。過去と現在のプレート運動の証拠について理解する。プレート運動の原動力について理解する。 b：プレートの運動と境界の関係、運動に伴って起こる地殻変動を説明できる。ホットスポットにより形成される火山・海山列とプレートの運動の関係を説明できる。プレート運動の原動力について説明できる。 c：地球表層の地学現象がプレート運動と関係していることに興味をもち、積極的に学習に取り組める。ハワイ諸島の並びが過去のプレート運動の証拠になることに興味をもち、積極的に学習に取り組める。			
1 学 期 後 半	第3章 地震 第1節 地震 第2節 地震の分布 第3節 地震災害	a：地震発生のしくみを理解する。震度とマグニチュードの違いを理解する。地震波の伝わり方と、観測された地震波から震源を求める方法を理解する。地震の震央分布とプレート境界の図から、地震とプレート運動の関係を理解する。日本付近で発生する地震の種類としくみを理解する。地震によって引き起こされる災害の種類と現象について理解する。 b：地震発生のしくみを説明できる。地震波の性質や、震源決定の方法について説明できる。プレート境界と地震の関係について説明できる。日本付近で発生する地震の種類を説明できる。液状化現象や津波などの地震災害の発生原因を説明できる。地震災害への対策や防災・減災の在り方について、考えを述べるができる。学校や家庭で地震が発生した時の自らの対応を提示することができる。 c：地震波の伝わり方や観測された地震波からわかることに興味をもち、積極的に学習に取り組める。日本で起こる地震の種類や発生のしくみに興味をもち、積極的に学習に取り組める。地震で起こる災害に興味をもち、積極的に学習に取り組める。	小テスト 問題集の 指定課題 期考査	小テスト レポート 課題 期考査	グループ活動発表 振り返りシート
	第4章 火山 第1節 火山活動 第2節 火成岩 第3節 火山がもたらす恵みと災害	a：火山噴火のしくみや火山噴出物について理解する。火山地形とマグマの関係を理解する。火山活動はプレート運動と関連があり、火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。火成岩を構成する鉱物とその特徴を理解する。火山岩と深成岩の構造や成因の違いについて理解する。火山が人間にもたらす恩恵や災害について理解する。火山災害に対する予測や防災の取り組みを理解する。 b：火山噴火のしくみを説明できる。マグマの発生や火山の分布がプレート運動に起因していることを説明できる。火成岩を構成する鉱物と、火成岩の分類について説明できる。火山がもたらす恵みや災害について説明できる。火山災害に対する予測や防災の取り組みについて、ハザードマップなどを用いて説明できる。 c：火山噴火のしくみや、マグマの性質と噴火のしかたの関連に興味をもち、積極的に学習に取り組める。火成岩の産状と分類に興味をもち、積極的に学習に取り組める。火山がもたらす恵みと災害に関心をもち、主体的に学習に取り組める。			

2 学 期 前 半	第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第1節 堆積作用と堆積岩 第2節 地層の形成	a: 風化、侵食、運搬、堆積の一連の流れを理解する。堆積作用によって形成される地形や、その形成過程を理解する。堆積岩の形成過程と種類について理解する。土砂災害の種類について理解する。地層の重なりや変形のしかたから、地層の形成過程を推定できることを理解する。堆積構造から、地層の層序や堆積環境を推定できることを理解する。 b: 堆積作用によって形成される地形や堆積岩の形成過程について説明できる。土砂災害の種類と特徴について説明できる。地層の形成過程はどのような形で地層に表れているか説明できる。地層中の堆積構造から読み取ることができる情報を説明できる。 c: 岩石が風化する過程に興味をもち、積極的に学習に取り組める。堆積作用と堆積岩に関心をもち、主体的に学習に取り組める。形成後に変形した地層について、地層が変形する前の様子や変形の過程に興味をもち、積極的に学習に取り組める。堆積構造に興味をもち、自ら調べ学習に取り組める。	小テスト	小テスト	グレー活動発表
	第2章 古生物の変遷と地球環境 第1節 化石と地質時代の区分 第2節 古生物の変遷	a: 化石を用いて地層の年代や地層が堆積した環境を推定できることを理解する。地質年代の区分のしかたを理解する。生物の進化と古生物の変遷について理解する。古生物の変遷と地球環境の変化との関係について理解する。人類の進化について理解する。 b: 地球の歴史について化石からわかることを説明できる。地質年代の区分のしかたを説明できる。生物の進化と古生物の変遷について説明できる古生物の変遷と地球環境の変化との関係について説明できる。 c: 地層に含まれる化石から地層の年代や堆積時の環境を推定できることに興味をもち、積極的に学習に取り組める。生物の活動によって形成された環境に興味をもち、積極的に学習に取り組める。	問題集の指定課題	レポート課題	
2 学 期 後 半	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第1節 大気の特徴 第2節 地球全体の熱収支	a: 大気の組成と気圧について理解する。大気の層構造と各層の特徴を理解する。雲ができるしくみを理解する。地球は太陽放射を受け取るだけでなく、赤外線を放射していることを理解する。地球全体のエネルギー収支がつりあっていることを理解する。温室効果のしくみを理解する。放射冷却が強まる条件を理解する。 b: 大気の層構造と各層の特徴について説明できる。雲ができるしくみを説明できる。地球のエネルギー収支の観点から、地球が太陽から受け取る熱の行方を説明できる。温室効果のしくみを説明できる。 c: 大気の構造に関心をもち、主体的に学習に取り組める。地球が受ける太陽放射や地球の熱収支に興味をもち、積極的に学習に取り組める。	小テスト	小テスト	グレー活動発表
	第2章 大気と海水の運動 第1節 大気の大循環 第2節 海水の運動 第3節 日本の天気と気象災害	a: 地球が受け取る太陽放射エネルギーの量は緯度によって異なることを理解する。熱収支には緯度による不均衡があり、大気や海洋が低緯度から高緯度へ熱を輸送していることを理解する。低・中・高緯度それぞれに大気循環が存在し、各地域の気候を特徴づけていることを理解する。温帯低気圧の構造と、温帯低気圧による熱輸送について理解する。海水の組成と海洋の層構造を理解する。海洋表層に海流が生じるしくみと、海流が低緯度から中緯度への熱輸送を担っていることを理解する。海洋の鉛直方向の循環が生じるしくみを理解する。地球上の水の循環と、降水量と蒸発量の分布の特徴を理解する。地表の高気圧と季節風を理解する。日本の四季の天気は、勢力を強める高気圧が季節ごとに異なることによって特徴づけられていることを理解する。日本の各季節で発生しやすい気象災害の特徴を理解する。 b: 大気の大循環が生じるしくみと、それがもたらす効果について説明できる。温帯低気圧のはたす役割を説明できる。海流が生じるしくみと、熱輸送の観点から海流のはたす役割について説明できる。海洋の鉛直方向の循環が生じるしくみを説明できる。季節ごとの日本の天気の特徴を説明できる。季節ごとの発生しやすい日本の気象災害を説明できる。 c: 大気の大循環が生じるしくみに興味をもち、積極的に学習に取り組める。海洋の鉛直方向の循環が生じるしくみに興味をもち、積極的に学習に取り組める。日本に上陸する台風に興味をもち、自ら調べ学習に取り組める。	問題集の指定課題	レポート課題	
			中間調査	中間調査	振り返りシート
			期末調査	期末調査	振り返りシート

3 学 期	第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 第1節 気候の自然変動 第2節 人間活動による環境変化 第3節 日本の自然環境	a: エルニーニョのしくみと、それが地球規模に影響を及ぼすことを理解する。大規模な火山噴火が気候に影響を及ぼす可能性があることを理解する。人間活動が原因とされる地球温暖化、オゾン層破壊、砂漠化、酸性雨の起こるしくみと、その影響や対策について理解する。地球環境システムに見られるフィードバックについて理解する。日本列島は急峻な地形で、多量の降水がもたらされていることを理解する。土砂災害は、地震や火山噴火、大雨のいずれによっても起こることを理解する。 b: エルニーニョのしくみと、それが気候に及ぼす影響について説明できる。大規模な火山噴火が気候に及ぼす影響について説明できる。人間活動によって起こる環境変化のしくみと、その影響について説明できる。地球環境システムについて説明できる。日本に黄砂が飛来しやすい時期を、四季の天気の特徴と関連させて考えることができる。地形や水資源に関する日本の特徴を説明できる。地震や火山噴火、大雨による土砂災害の原因と対策について説明できる。 c: 気候の自然変動が人間生活に及ぼす影響に興味をもち、積極的に学習に取り組める。地球環境の変化やその原因や対策に興味をもち、積極的に学習に取り組める。日本で発生する自然災害に興味をもち、積極的に学習に取り組める。	小テスト 問題集の 指導題 学年末考査	小テスト レポート 課題 学年末考査	グループ活動発表 振り返りシート
	第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 第1節 太陽系の天体 第2節 太陽 第3節 太陽系の誕生と現在の地球	a: 太陽系の惑星の特徴や、地球型惑星と木星型惑星の違いについて理解する。太陽系の小天体の種類を理解する。太陽表面のようすや諸現象について理解する。太陽のエネルギー源について理解する。太陽が誕生し、主系列星になるまでの過程を理解する。太陽系や惑星の形成過程と、地球の進化の歴史を理解する。地球に生命が誕生した要因を理解する。 b: 8つの惑星の特徴と、地球型惑星と木星型惑星の違いについて説明できる。太陽系の小天体の特徴を説明できる。太陽表面の様子やエネルギー源について説明できる。惑星の内部構造の違いを惑星の形成過程をふまえて説明できる。太陽系の惑星の比較から、地球に生命が存在できる理由について説明できる。 c: 太陽系内に存在する衛星に興味をもち、自ら調べ学習に取り組める。太陽表面に見られる構造に興味をもち、積極的に学習に取り組める。太陽の誕生と進化の過程に興味をもち、積極的に学習に取り組める。			
	第2章 宇宙の誕生 第1節 宇宙の誕生	a: 恒星や銀河の特徴について理解する。銀河系の構造と、太陽系の位置を理解する。宇宙の誕生と進化の過程を理解する。 b: 銀河系の構造や太陽の位置について、天の川の見え方から説明できる。ビッグバンによる宇宙の誕生から、太陽や地球の誕生までの過程を説明できる。 c: ・宇宙の誕生や、宇宙に存在する天体や宇宙の構造に興味をもち、積極的に学習に取り組める。			

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3	対象学年 コース・類型	1 学年
科目の 概要と 到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようするため、運動の多様性や体力の必要性について理解したり、それらの技能を身につけたりしている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
主 な 評 価 方 法	授業の取り組み （準備運動・アップ） 振り返りテスト 実技テスト		授業の取り組み（グループワーク） 振り返りテスト 実技テスト		授業の取り組み（態度） 振り返り 発表 準備・片づけ		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期	A 体づくり運動	a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 b:自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み 発表 振り返り
	選択1 E 球技	a:勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 b:攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り
	F 武道	a: 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解する。 基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。 b:攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己の考えたことを他者に伝えることができる。 c:武道の学習に自主的に取り組み、相手を尊重し、武道の伝統的な行動の仕方を大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り

	H.体育理論 1 スポーツの始まりと変遷 2 文化としてのスポーツ	a:スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解しようとしている。 b:スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断しようとしているとともに、他者に伝えようとしている。 c:スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。	期末テスト	期末テスト	授業の取 り組み 振り返り 発表
2 学 期	A 体づくり運動 選択2 B機械運動	a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 b: 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み 発表 振り返り
		a:技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解する。 自己に適した技で演技することができる。 b:技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己の考えたことを他者に伝えることができる。 c:器械運動の学習に自主的に取り組み、よい演技を讃たたえることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保すること ができる。	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り

	C陸上	a: 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 各種目特有の技能を身に付けることができる。 b:動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己の考えたことを他者に伝えることができる。 c:陸上競技の学習に自主的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。	授業の 組み	授業の 組み	授業の 組み
			実技テスト	実技テスト	発表 振り返り
	Gダンス	a:気持ちを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解する。 イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。 b:表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康・安全を確保することができる。	授業の 組み	授業の 組み	授業の 組み
			実技テスト	実技テスト	発表 振り返り
	H体育理論 3オリンピックとパラ リンピックの意義 4 スポーツが経済に及 ぼす影響	a:現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックやパラリンピック等の国際大会があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 現代のスポーツの経済的効果には、スポーツの実施による直接的な効果のみならず、例えば、スポーツ用品、スポーツに関する情報やサービス、スポーツ施設などの広範な業種から構成されるスポーツ産業による効果、スポーツイベント等による波及的な経済的効果があり、経済活動に大きな影響を及ぼしていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	期末テスト	期末テスト グループ ワーク	授業の 組み 振り返り 発表

		b:スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。 c:スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。			
3 学 期	A 体づくり運動 E 球技	a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 b:自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。 a:勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 b:攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り 授業の取 り組み 発表 振り返り

	H体育理論 5 スポーツの高潔さとドーピング 6 スポーツと環境	a:競技会での勝利が個人や国家等に多大な利益をもたらすようになるとドーピング(禁止薬物使用等)が社会問題として取り上げられるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 スポーツに関わる人々の増加は、例えば、地域の人々の生活や社会環境にも様々な影響をもたらすようになっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 スポーツを行う際には、提供者、利用者の双方が持続可能な社会の実現や共生社会の実現を視野に入れた取組が求められることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。 c:スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	期末テスト	期末テスト グループワーク	授業の取り組み 発表 振り返り
--	---	---	--------------	-----------------------------	--------------------------------------

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2	対象学年 コース・類型	2 学年
科目の 概要と 到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）						
評 価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解したり、それらの技能を身につけたりしている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
主 な 評 価 方 法	授業の取り組み （準備運動・アップ） 振り返りテスト 実技テスト		授業の取り組み（グループワーク） 振り返りテスト 実技テスト		授業の取り組み（態度） 振り返り 発表 準備・片づけ		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期	A 体づくり運動	a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。 b:自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:体づくり運動に主体的に取り組み、互いに助け合い高め合う。 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み 発表 振り返り
	選択 1 E 球技	a:勝敗を競ったり、チームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 b:運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 c:球技に主体的に取り組み、フェアなプレイを大切にし、合意形成に貢献することや一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にし、互いに助け合い高め合おうとする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テス ト	授業の取 り組み 実技テス ト	授業の取 り組み 発表 振り返り
	F 武道	a: 勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解する。 得意技などを用いた攻防を展開することができる。 b:運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:武道に主体的に取り組み、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にすることや役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦をしたり積極的に取り組むことができる。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り

	H.体育理論 1 スポーツにおける技能と体力 2 スポーツにおける技術と戦術	a:運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、クローズドスキル型とオープンスキル型の技能があることについて、その型の違いによって学習の仕方が異なることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況に関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見しようとしている。 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えようとしている。 c:運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	期末テスト	期末テスト	授業の取り組み 振り返り 発表
2 学 期	A 体づくり運動 選択2 B機械運動	a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。 b:自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:体づくり運動に主体的に取り組む、互いに助け合い高め合う。 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。 健康や安全を確保することができる。 a:技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解する。 自己に適した技で演技することができる。 b:運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:器械運動に主体的に取り組む、よい演技を讃えることや互いに助け合い高め合おうとしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取り組み 授業の取り組み 実技テスト	授業の取り組み 授業の取り組み 実技テスト	授業の取り組み 発表 振り返り 発表 振り返り

	C陸上	a: 記録の向上や競争、自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 各種目特有の技能を身に付けることができる。 b:運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:陸上競技に主体的に取り組み、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にすることや役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしたりする。 健康や安全を確保することができる。	授業の 取り組み	授業の 取り組み	授業の 取り組み
			実技テスト	実技テスト	発表
					振り返り
	Gダンス	a:気持ちを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方、課題解決の方法、体力の高め方などを理解する。 それぞれ特有な表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる。 b:運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:ダンスに主体的に取り組み、互いに共感し高め合おうとすることや合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする。 健康・安全を確保することができる。	授業の 取り組み	授業の 取り組み	授業の 取り組み
			実技テスト	実技テスト	発表
					振り返り
	H体育理論 3技能の上達過程と練習	a:運動技能の上達過程を三つに分ける考え方があること、また、自己観察や他者観察を通して課題を発見し解決することを言ったり書いたりしている。 運動やスポーツの技能を発揮する際には、個々の技能に関連した体力を高めることが必要になることや、期待される成果に応じた技能や体力の高め方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	期末テスト	期末テスト	授業の 取り組み
				グループ ワーク	振り返り
	4 効果的な動きのメカニズム	b:運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況に関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見しようとしている。 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えようとしている。			発表

		c:運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。			
3 学 期	A 体づくり運動	a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方など理解している。 b:自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:体づくり運動に主体的に取り組む、互いに助け合い高め合う。一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。 合意形成に貢献しようとする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み 発表 振り返り
	E 球技	a:勝敗を競ったり、チームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 b:運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 c:球技に主体的に取り組む、フェアなプレイを大切にし、合意形成に貢献することや一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にし、互いに助け合い高め合おうとする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り
	H 体育理論		期末テスト	期末テスト	授業の取 り組み
	5 体力トレーニング 6 運動やスポーツでの安全の確保	a:運動やスポーツを行う際、個人の体力に不適切で過度な負荷や一定部位への長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があること、また、これらを予防することでスポーツが末永く継続できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められること及び、気象条件や自然環境の変化など様々な危険を予見し回避するためには、けがや事故の防止のための対策、発生時の処置、回復期の対処などの各場面での適切な対応方法を想定しておくこと、けがや事故につながりそうな体験から行動や活動環境の修正を図ることが有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		グループ ワーク	発表 振り返り

		b:運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況に関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見しようとしている。 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えようとしている。 c:運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。			
--	--	--	--	--	--

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2	対象学年 コース・類型	3 学年
科目の 概要と 到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解したり、それらの技能を身につけたりしている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
主 な 評 価 方 法	授業の取り組み （準備運動・アップ） 振り返りテスト 実技テスト		授業の取り組み（グループワーク） 振り返りテスト 実技テスト		授業の取り組み（態度） 振り返り 発表 準備・片づけ		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期	A 体づくり運動	a:体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。 b:自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:体づくり運動に主体的に取り組み、互いに高め合う。 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。 合意形成に貢献しようとする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み 発表 振り返り
	陸上	a: 記録の向上や競争、自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 各種目特有の技能を身に付けることができる。 b:運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 c:陸上競技に主体的に取り組み、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にすることや役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしたりする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テス ト	授業の取 り組み 実技テス ト	授業の取 り組み 発表 振り返り
	選択1				
	E 球技	a:勝敗を競ったり、チームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 b:運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 c:球技に主体的に取り組み、フェアなプレイを大切にし、合意形成に貢献することや一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にし、互いに助け合い高め合おうとする。 健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り
			期末テスト	期末テスト	授業の取

	H.体育理論 1 生涯スポーツの見方・考え方 2 ライフスタイルに応じたスポーツ	a: スポーツは、各ライフステージにおける身体的、心理的、社会的特徴に応じた多様な楽しみ方について、理解したことを言ったり書いたりしている。 b: ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見しようとしている。 c: 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。		グループワーク	り組み 振り返り 発表
2 学 期	A 体づくり運動	a: 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。 b: 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 c: 体づくり運動に主体的に取り組む、互いに高め合う。一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み 発表 振り返り
	選択 2 E 球技	a: 勝敗を競ったり、チームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 b: 運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫する。自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 c: 球技に主体的に取り組む、フェアなプレイを大切にし、合意形成に貢献することや一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にし、互いに助け合い高め合おうとする。健康や安全を確保することができる。	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 実技テスト	授業の取 り組み 発表 振り返り
	H.体育理論 3 スポーツを推進する取り組み 4 豊かなスポーツライフの創造	a: 国や地方自治体は、スポーツの推進のために様々な施策を行っており、人や財源、施設や用具、情報などを人々に提供するなどの条件整備を行っていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b: 豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えようとしている。 c: 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	期末テスト	期末テスト グループワーク	授業の取 り組み 振り返り 発表

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	2	対象学年 コース・類型	1 学年 2 学年
科目の 概要と 到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や態度を育てる。						
教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)						
副教材	現代高等保健体育ノート (大修館書店)						
評 価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
主 な 評 価 方 法	・授業の取り組み ・提出物（ノート・プリント） ・定期考査		・授業の取り組み ・提出物（ノート・プリント） ・レポート課題 ・定期考査		・授業の取り組み ・提出物（ノート・プリント） ・ワークシート ・定期考査		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 年 1 学 期 前 半	現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた	a:我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について理解している。 b:健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート
1 年 1 学 期 後 半	3 生活習慣病の予防と回復 4 ガンの原因と予防 5 ガンの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	a:生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解している。 b:生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物 定期考査	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題 定期考査	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート 定期考査
1 年 2 学 期 前 半	9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康	a:喫煙、飲酒、薬物が人体や周囲の人々に与える影響について理解している。 b:喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート
1 年 2 学 期 後 半	12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	a:感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解している。 b:現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物 定期考査	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題 定期考査	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート 定期考査

1 年 3 学 期	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全	a:事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて理解している。 b:安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート
	4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	a:適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて理解している。また、実習を通して基本的な応急手当やAEDを用いた心肺蘇生法を正しく行うことができる。 b:応急手当について、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物 定期考査	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題 定期考査	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート 定期考査
2 年 1 学 期 前 半	生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠と・出産と健康	a:思春期にける心身の発達、性的成熟に伴う身体面や精神的な変化、家族計画や結婚生活に伴う、健康課題に理解している。 b 思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:生涯を通じる健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート
2 年 1 学 期 後 半	5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康	a:結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解している。 b:結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 c:生涯を通じる健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み 提出物 定期考査	授業の取 り組み 提出物 レポート 課題 定期考査	授業の取 り組み 提出物 ワークシ ート 定期考査

2 年 2 学 期 前 半	8 働くことと健康	a:労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解している。 b:労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できる。 c:労働と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み
	9 労働災害と健康		提出物	提出物	提出物
	10 健康的な職業生活			レポート 課題	ワークシ ート
2 年 2 学 期 後 半	健康を支える環境づくり	a: 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解している。 b:環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できる。 c:環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み
	1 大気汚染と健康		提出物	提出物	提出物
	2 水質汚濁、土壌汚染と健康			レポート 課題	ワークシ ート
2 年 3 学 期	3 環境と健康にかかわる対策	a:健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解している。 b:生活に関わる食や医療、健康に関する環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:生活に関わる食や医療、健康に関する環境yづくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	定期考査
	4 ごみ処理と上下水道の整備		定期考査	定期考査	定期考査
				定期考査	定期考査
2 年 3 学 期	5 食品の安全性	a:健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解している。 b:生活に関わる食や医療、健康に関する環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:生活に関わる食や医療、健康に関する環境yづくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	授業の取 り組み	授業の取 り組み	授業の取 り組み
	6 食品衛生にかかわる活動		提出物	提出物	提出物
	7 保健サービスとその活用			レポート 課題	ワークシ ート
2 年 3 学 期	8 医療サービスとその活用	a:健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解している。 b:生活に関わる食や医療、健康に関する環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:生活に関わる食や医療、健康に関する環境yづくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	定期考査
	9 医療品の制度とその活用		定期考査	定期考査	定期考査
	10 さまざまな保健活動や社会的対策			定期考査	定期考査
2 年 3 学 期	11 健康に関する環境づくりと社会参加	a:健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解している。 b:生活に関わる食や医療、健康に関する環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法を話し合ったり、ノートなどに記述したりして、説明できる。 c:生活に関わる食や医療、健康に関する環境yづくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	定期考査
			定期考査	定期考査	定期考査
				定期考査	定期考査

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅰ	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	科目の概要 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 到達目標 （１）曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 （２）自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 （３）主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。						
教科書	ON！1（音楽之友社）						
副教材	MUSIC NOTE～基礎から学ぶ高校音楽～（啓隆社）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	表現 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。 鑑賞 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 ・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。		・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。		音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、題材に関心を持ちながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・ワークシート ・小テスト ・実技テスト		・授業中の学習態度 ・ワークシート ・実技テスト		・授業中の学習態度 ・自己評価、振り返りシート ・ワークシート		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	みんなで歌おう 「校歌」 「翼をください」 「ホールニューワールド」	a: 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、歌詞の発音などの技能を身につけている。 b: 旋律や声の音色を理解して、どのように歌唱表現するかについて表現意図を持っている。 c: 楽曲や作品に関心を持ち、主体的に歌唱や鑑賞の活動に取り組もうとしている。	観察 実技テ スト	観察 実技テ スト	観察 自己評価 振り返り シート
1 学 期 後 半	楽譜の設計図 「五線譜を見てみよう」 「リズム」 「メロディー」	a: 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。 b: 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きについて感受することができる。 c: 主体的に学習に取り組むことができる。	観察 ワーク シート 小テス ト	観察 ワーク シート	観察 自己評価 振り返り シート
	ヨーロッパの歌（イタリア） 「オー・ソレ・ミオ」	a: 言葉の特性と、曲種に応じた発声との関わりについて理解している。言葉の特徴をとらえた発声などの技能を身につけている。 b: 旋律や言葉と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現を持っている。 c: 楽曲の雰囲気を持って、主体的に歌唱の活動に取り組もうとしている。	観察 実技テ スト	観察 実技テ スト	観察 自己評価 振り返り シート
2 学 期 前 半	ヨーロッパの歌（ドイツ） 「野バラ」	a: 言葉の特性と、曲種に応じた発声との関わりについて理解している。言葉の特徴をとらえた発声などの技能を身につけている。 b: 旋律や言葉と楽曲の美しさとの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現を持っている。 c: 楽曲の雰囲気を持って、主体的に歌唱の活動に取り組もうとしている。	観察 実技テ スト	観察 実技テ スト	観察 自己評価 振り返り シート
	鑑賞 「郷土の伝統音楽」	a: 様々な音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。 b: 音色やリズム、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 様々な音楽に関心を持ち、主体的、協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。	観察 ワーク シート 小テス ト	観察 ワーク シート	観察 自己評価 振り返り シート
2 学 期 後 半	鑑賞 「諸外国の音楽」	a: 様々な音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解している。 b: 音色やリズム、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 様々な音楽に関心を持ち、主体的、協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。	観察 ワーク シート 小テス ト	観察 ワーク シート	観察 ワーク シート 自己評価 振り返り シート

2 学 期 後 半	楽器にチャレンジ 「喜びのうた」 「ディズニー・ア・ラ・カルト」	a: 曲想とリコーダーの基本的な奏法との関わりについて理解している。 b: 音色を知覚し、どのように演奏するかについて、表現意図を持っている。 c: 演奏に関心を持ち、主体的に器楽活動に取り組んでいる。	観察 実技テスト	観察 実技テスト	観察 ワークシート 自己評価 振り返りシート
3 学 期	合唱 「ぜんぶ～卒業式バージョン～」	a: 曲想と楽曲の構造との関わりについて理解し、音の重なりや和音の響き、特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 b: 音色やリズム、旋律、和音の関係を知覚し、それらの働きを感受し、特徴をとらえて、どのように音楽を作り出し、自ら表現するかについて表現意図をもっている。 c: 題材に関心を持ち、主体的に創作活動や演奏、学習に取り組もうとしている。	観察 ワークシート	観察 ワークシート	観察 自己評価 振り返りシート
	創作 「コード進行からメロディーを作ろう」	a: 曲想と楽曲の構造との関わりについて理解し、音の重なりや和音の響き、特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 b: 音色やリズム、旋律、和音の関係を知覚し、それらの働きを感受し、特徴をとらえて、どのように音楽を作り出し、自ら表現するかについて表現意図をもっている。 c: 題材に関心を持ち、主体的に創作活動に取り組もうとしている。	観察 ワークシート	観察 ワークシート	観察 自己評価 振り返りシート
	楽典 「和音の種類とコードネーム」	a: 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。 b: 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きについて感受することができる。 c: 主体的に学習に取り組むことができる。	観察 ワークシート 小テスト	観察 ワークシート	観察 自己評価 振り返りシート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	表現および鑑賞の領域で、絵画・彫刻とデザイン・映像メディア表現の分野における創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 ・造形的な視点について理解を深め、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現できる。 ・造形的な視点から主題を生成し、創造的な発想・構想で価値意識をもち、見方や感じ方を深めることができる。 ・主体的に創造活動に取り組み、感性を高めながら美術文化に親しむ態度を養う。						
教科書	高校生の美術1（日本文教出版）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めているか。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表しているか。		・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしているか。		・主体的に表現および鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の活動の様子（発言・発表、態度、姿勢等） ・ワークシート ・スケッチブック（発想、構想等） ・下絵 ・作品		・授業中の活動の様子（発言・発表、態度、姿勢等） ・ワークシート ・スケッチブック（発想、構想等） ・下絵 ・作品		・授業中の活動の様子（発言・発表、態度、姿勢等） ・ワークシート（振り返り） ・スケッチブック（発想、構想等） ・下絵 ・作品		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	題材・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期	[リエンテーション・鑑賞] 「美術とは何か」 ・美術の学びの意味や広がりについて、作品鑑賞を通して考える。	a : 表現するための造形的な視点について理解を深めている。 b : 表現・鑑賞の活動経験を振り返り、美術を学ぶ意味、美術の働きについて考えている。	活動様子 ワークシート	活動様子 ワークシート	
	[表現] 「身近なものを見つめて」 (鉛筆による描画表現) ・身近なものを見つめ直し、そのよさや美しさに気づき、感じ取ったことや考えたことをもとに、鉛筆の特性を生かしながら描く。	a : 形体と色彩、材質や光による変化などの造形的な視点について理解を深め、その造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 画材用具の特性を生かし、対象の特徴や表情に応じて表現方法を創意工夫している。 b : 対象を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成している。 画材用具の特性を生かし表現の幅を広げ、形体や構図などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 c : 主体的に身近なものを見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品
	[鑑賞・表現] 「花を描こう」 (油彩による描画表現) ・好きな花を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、油彩用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し、創造的な表現を追求する。	a : 形体と色彩、光による変化などの造形的な視点について理解を深め、その造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 油彩用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 b : 好きな花を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成している。 油彩用具の特性を生かし表現の幅を広げ、形体や色彩、構図などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 c : 主体的に好きな花を見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 主体的に作品の造形的なよさを感じ取り、作者の心情や油彩用具の特性を生かした創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品
2 学 期	[鑑賞] 「鑑賞T I M E」 ・〈見る→考える→話す→聞く〉の流れで、作品に込められた思いを探るとともに、他者の解釈に触れることで見方や考え方を広げる。	a : 形体、色彩、素材等の造形要素の働きを理解するとともに、造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 b : 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や考え方を深め広げている。 生活や社会の中の美術・アートの働きについて考え、見方や考え方を深め広げている。 c : 主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や考え方を深め広げる鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック	活動様子 ワークシート スケッチブック	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック

	【鑑賞・表現】 「自己との対話（自画像）」 （油彩による描画表現） 過去の自分を振り返り、未来の自分を想像しながら、現在の自分と対話して思い巡らせたことを基に主題を生成し、自身を表現するための構想を練り、油彩の特性を生かした創造的な表現を追求する。	a： 形体、色彩、構図など造形の要素の働きについて理解を深め、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 油彩用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 b： 過去の自分を振り返り、未来の自分を想像しながら、現在の自分と対話して主題を生成している。 油彩用具の特性を生かし表現の幅を広げ、形体や色彩、構図などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 c： 主体的に自己との対話を通して思いを巡らせたことを基に創造的な表現活動に取り組もうとしている。 主体的に作品の造形的なよさを感じ取り、作者の心情や油彩用具の特性を生かした創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める創造的な鑑賞活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品
3 学 期	【鑑賞・表現】 「本の表紙デザイン」 （水彩、色鉛筆等による描画表現） 社会におけるデザインの役割について理解し、効果的なデザインレイアウトやフォントを駆使して、書店を訪れる人に思わず手に取って見てもらえる表紙デザインを目指す。	a： レイアウト、フォントなどデザイン要素の働きについて理解を深め、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し、本の表紙として創造的に表している。 b： 本の内容を基に目的や条件、美しさなどを考え、主題（デザインコンセプト）を生成している。 デザインコンセプトを基に、レイアウトやフォントの表現形式や画材の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 c： 主体的にデザイン表現の創造活動に取り組もうとしている。 主体的にデザイン的なよさや効果を感じ取り、本の内容と結びついた創造的な表現の工夫などについて考え、効果的なデザイン表現を深める鑑賞活動に取り組もうとしている。	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート スケッチブック 下絵 作品	活動様子 ワークシート (振り返り) スケッチブック 下絵 作品

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	芸術	科目名	書道Ⅰ	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにし、生涯にわたり書を愛好する心情を育み、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
教科書	書Ⅰ（光村書店）						
評価 の 観点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解しているか。また、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけているか。		書のよさや美しさを感じ、ねらいに基づいて構想し表現を工夫しているか。また、書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい捉えたりすることができているか。		主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしているか。		
主 な 評 価 方 法	- 授業中の学習態度 - 提出物		- 授業中の学習態度 - 提出物		- 授業中の学習態度 - 提出物 - ワークシート		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	書道入門 楷書の学習 ・ 楷書の基本点画 ・ 孔子廟堂碑 ・ 九成宮醴泉銘	a：書写と書道の違いについて理解し、用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。また、楷書の書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、楷書の古典の書風を表現出来るとともに、書風を再現する倣書ができる。 b：楷書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。また、書風を再現する倣書をするために、書風の理解に基づき思考している。 c：主体的に楷書の幅広い書風の表現に取り組もうとしている。	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度
1 学 期 後 半	・ 雁塔聖教序 ・ 建中告身帖 ・ 鄭義下碑 ・ 書風による倣書 夏期課題 細字氏名練習 楷書・行書		提出物	提出物	提出物 ワークシート
2 学 期 前 半	行書の学習 ・ 行書の基本点画 ・ 蘭亭序 ・ 枯樹賦 ・ 風信帖	a：行書及び隸書の書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、行書・隸書の古典の書風を表現できる。また、印を刻する刀法を理解し、各自の氏名または名のみにより印を制作することができる。 b：行書及び隸書の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。また、印面への各自の文字の印稿が安定感のあるものになるように思考している。 c：主体的に行書・隸書の幅広い書風の表現に取り組もうとし、また主体的に印を制作しようとしている。	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度
2 学 期 後 半	篆刻の学習 ・ 氏名による印制作 隸書の学習 ・ 曹全碑 ・ 礼器碑		提出物	提出物	提出物 ワークシート
3 学 期	仮名の書の学習 ・ 仮名の筆使い ・ 平仮名 ・ 変体仮名 ・ 連綿 ・ 散らし書き 漢字仮名交じりの書 ・ 手紙文 ・ 賞状	a：仮名の書の用筆・運筆を理解し表現できる。また、連綿、散らし書きの方法を理解し表現できる。また、漢字と仮名の調和について理解し表現できる。 b：仮名の書の用筆・運筆・字形、連綿を用いた散らし書きの全体構成について構想し工夫している。また、漢字と仮名が調和するよう工夫している。 c：主体的に仮名の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。また、漢字と仮名が調和するように主体的に取り組もうとしている。	授業中の 学習態度 提出物	授業中の 学習態度 提出物	授業中の 学習態度 提出物 ワークシート

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	【科目の概要】 5領域の指導を通して、英語でコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する。 【到達目標】 聞くこと...日常的な話題についての英文を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。英語コミュニケーションⅠの教科書の英文を聞き、ディクテーションができる。 読むこと...日常的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。英語コミュニケーションⅠの教科書を読み、本文の内容を理解できる。 話すこと [やり取り] ...英語コミュニケーションⅠの教科書に関連する日常的な話題について、基本的な表現を用いて質疑応答ができる。相手の発言に対してリアクションや応答ができる。 話すこと [発表] ...英語コミュニケーションⅠの教科書の内容を、メモを参考にしながら、英語で伝えることができる。また、教科書の内容に関連するテーマについて、スクリプトを参考にしながら、1分程度で相手に伝えることができる。 書くこと...英語コミュニケーションⅠの内容を、簡単な英語で要約できる。また、教科書の内容に関連するテーマについて、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。						
教科書	Heartening English Communication Ⅰ (桐原書店)						
副教材	Heartening English Communication Ⅰ 学習ノート (桐原書店) Heartening English Communication Ⅰ Workbook (桐原書店) Heartening English Communication Ⅰ 4 技能学習 Navi ブック (桐原書店)						
	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
評価 の 観 点 ・ 内 容	教科書本文を聞き、簡単な質問に英語で答えたり、概要を捉えたりすることができる。教科書を読み、内容を理解したり、必要な情報を読みとったりすることができる。教科書本文に関する話題について、自分の意見を言ったり、まとめたりすることができる。		教科書本文を読み、必要な情報を読みとることができる。教科書本文の内容に関して、要点をまとめたメモをもとに、本文の要約を英語で伝えることができる。教科書本文に関するテーマについて、英語でディベートをしたり、論理性に留意して、自分の意見を英語で書いたりすることができる。		積極的に英語でコミュニケーションをとろうとしている。ペアやグループでの活動の際に、英語で自分の意見を言ったり、他の人の意見を聞いたりする姿勢ができていいる。ロールプレイングなどの活動に意欲的に取り組んでいる。単元ごとに学習した内容を振り返り、自己評価をすることができる。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・課題への取組み状況 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・確認テスト、小テスト ・レポート課題 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・自己評価、振り返りシート ・グループ活動や発表の状況 ・パフォーマンス課題		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	L	Lis	R	Si	Sp	W
1 学 期 前 半	<Lesson 1> Bringing Out the Best in Himself ・現在形／過去形 ／進行形 ・未来表現 <Lesson 2> Hold On, Anzu! ・現在完了形／ 現在完了進行形 ・過去完了形／ 過去完了進行形	a: 現在形、過去形、進行形および未来表現の文の 特徴やきまりを理解している。内容を整理し、学習 した新語などを用いて話す技能を身に付けている。 八村選手や、Anzu に関するストーリーを聞いて要 点を捉えることができる。	L1	○	○	○		○
		b: 教科書の内容をわかりやすく整理して話してい る。メモをもとに、教科書の内容を英語で表現しま とめることができる。 c: 意欲的に活動に取り組んでいる。	L2		○		○	
1 学 期 後 半	<Lesson3> We can make a Difference SDGs ・助動詞 <Lesson 4> Creative problem Solving ・様々な受動態 ・前置詞 <RL English 1> How to Deal with Dorm Room Issues <Reading 1> The ABC' s of courage	a: 助動詞を用いた文の特徴やきまりを理解してい る。気候変動や、ごみのポイ捨ての心理に関する英 文を読み、要点を捉えることができる。 寮生活を	L3	○	○	○		○
		送る主人公に関する文章を読み、ロールプレイング ができる。	L4		○		○	○
		b: 教科書の内容の要点をとらえ、自分の意見を英語 で話したり書いたりすることができる。	RL1			○	○	
		c: 積極的に英語で表現しようとしている。意欲的に 発表している。役になりきってロールプレイングす ることができる。	R 1	○	○			
2 学 期 前 半	<Lesson 5> Canned bread to Feed the world SDGs ・不定詞 ・知覚/使役動詞 <Lesson 6> Could We Have a Real Jurassic Park? ・動名詞 ・SVC(分詞)	a: パン・アキモトの取組を述べた物語文を聞き、 要点を聞き取ることができる。恐竜再生に関する説 明文を読み、内容を理解できる。	L5	○	○	○		○
		b: 物語に出てくる人物や事柄を整理し、メモをもと に教科書の内容を英語で表現することができる。 恐竜再生について自分の意見を述べるパラグラフを 書くことができる。 c: ペアで意欲的に会話をすることができる。さまざ まな語句を用いて英文を書こうとしている。	L6		○		○	○
2 学 期 後 半	<Lesson 7> Behind the price tag SDGs ・分詞構文 <Lesson 8> The world' s Winter festivals ・比較 ・従属接続詞 <RL English 2> How to Enjoy a	a: 分詞や比較の表現を用いた文の特徴やきまりを 理解している。衣類製造のプロセスにおける労働者 や、世界の祭りに関する説明文を読み、内容を理解	L7	○	○	○		○
		できる。留学先でのパーティーを題材に、ロールプ レイングができる。	L8	○			○	
		b: 相手の意見に賛成、反対を表明し、理由を説明す る。自分の主張をパラグラフで書くことができる。	RL2			○	○	

	Potluck Party on Christmas 〈Reading 2〉 The Boy with the Box	c: 自分の意見を英語で意欲的に発表している。役になりきってロールプレイングすることができる。	R2	○				
3 学 期 前 半	〈Lesson9〉 Talking Trees ・関係代名詞 ・関係副詞 〈Lesson10〉 Capturing the Reality of the World ・仮定法 〈RL English 3〉 How to Show Appreciation to Your Teachers	a: 木のコミュニケーション説明文を聞き、概要を捉えることができる。フォトジャーナリストに関する物語文を読み、内容を理解する。	L9	○	○		○	
		b: フォトジャーナリストの仕事を友人に伝えたり、紹介記事を書いたりできる。Teacher Appreciation Week を題材に、ロールプレイングができる。	L10		○		○	○
		c: 自分の意見を英語で意欲的に発表している。役になりきってロールプレイングすることができる。	RL3			○	○	

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第1学年
科目の 概要と 到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。 ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。						
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）						
副教材	SuperLiveView 資料+食品成分表（東京図書）						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a：知識・技能		b：思考・判断・表現		c：主体的に学習に取り組む態度		
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けているか。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしているか。		
主 な 評 価 方 法	・授業中の学習態度 ・課題への取り組み状況 ワークシート 実技課題作品 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・課題への取り組み状況 ワークシート ホームプロジェクト ・定期考査		・授業中の学習態度 ・課題への取り組み状況 ワークシート ホームプロジェクト		

※上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評定（1～5の5段階）にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評 価 基 準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動	a:ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 b:自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだそうとしている。 c:より良い生活や社会の構築に向けて課題の解決に積極的に取り組もうとしている。	ワーク シート	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度
	生活の自立 食生活をつくる	a:食品や栄養の特質、食品の調理上の性質、食品衛生、ライフステージに応じた栄養摂取の特徴、健康や環境に配慮した食生活を理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な知識や技能を身に付けている。 b:健康への配慮や、食の安全・食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理を実践しようとする態度を身に付けている。 c:食生活について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家族、地域の食生活の向上を図るために実践しようとしている。		ワーク シート	ワーク シート
1 学 期 後 半	衣生活をつくる	a:ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、被服材料、被服構成、被服衛生について理解しているとともに健康で快適な衣生活に必要な技能を身に付けている。 b:健康で快適な衣生活のために衣生活の実践を評価、改善し、課題の解決策を表現するなどして解決する態度を身に付けている。 c:衣生活とそれに関わる環境や健康について課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、向上を図るために実践しようとしている。	ワーク シート	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度
	住生活をつくる	a:ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能や住まい方を理解しているとともに、適切な住生活に必要な技能を身に付けている。 b:住居の機能や快適性、地域社会との関わりについて課題を設定し、解決策を構想、考察したことを表現する力を身に付けている。 c:住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、自分や家庭、地域生活の向上を図り、地域社会に参画、実践しようとしている。	実技課題 作品 期末考査	ワーク シート 期末考査	ワーク シート

夏 期 休 業	ホームプロジェクトと学 校家庭クラブ活動	a:ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 b:自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想、実践を評価・改善し課題を解決しようとする力を身に付けている。 c:より良い生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的・積極的に取り組み、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	ワーク シート	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度
				ワーク シート	ワーク シート
2 学 期 前 半	家族・社会との共生 子どもと共に育つ	a:乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て問題と支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 b:子どもの健やかな発達のために、親や家族、地域社会の果たす役割の重要性について課題を設定、解決策を構想、考察したことを表現するなどして課題を解決しようとする力を身に付けている。 c:子どもの発達、生活と保育について課題の解決に主体的積極的に取り組み、充実向上を図るために実践しようとしている。	ワーク シート	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度
	超高齢社会を共に 生きる	a:高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境と課題、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 b:高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想、考察したことを表現するなどして課題を解決しようとする力を身に付けている。 c:高齢期の生活と福祉について課題の解決に主体的・積極的に取り組み、充実向上を図るために実践しようとしている。		ワーク シート	ワーク シート
2 学 期 後 半	共に生き、共に支える	a:生涯を通して、家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 b:家庭や地域社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することについて課題を設定、解決策を構想、考察したことを表現するなどして課題を解決しようとする力を身に付けている。 c:共生社会と福祉について課題の解決に主体的積極的に取り組み、地域社会に参画していこうとしている。	ワーク シート	授業中の 学習態度	授業中の 学習態度
			期末考查	ワーク シート	ワーク シート
				期末考查	期末考查

	生活の自立 経済生活を営む 持続可能な生活を営む 家族・社会との共生 生涯を見通す	a:家計の構造や家庭経済と社会との関わり、消費者の権利と責任、消費行動における意思決定、消費者保護などについて理解し、健全な消費生活を送る技能を身に付けている。 b:自立した消費者として課題の解決を実践していこうとする力を身に付けている。 c:消費行動と意思決定について課題の解決に主体的積極的に取り組み、生活の充実・向上を図るために実践していこうとしている。 a: 生活と環境との関わり、持続可能な消費社会への参画の意義について理解している。 b: 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、問題を見いだして課題を設定、解決策を構想、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 様々な人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 a: 人の一生について様々な生き方があることを理解し、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について技能を身に付けている。 b: 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定、解決策を構想、実践を評価・改善、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 様々な人々と協働し、生涯の生活設計について課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
3 学 期	人生をつくる	a: 生涯発達の視点での青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 b: 男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性や、家庭や地域のよりよい生活を創造するために自己の意思決定に基づき責任をもって行動することの重要性について問題を見いだして課題を設定、解決策を構想、実践を評価・改善、考	ワーク シート 期末考査	授業中の 学習態度 ワーク シート 期末考査	授業中の 学習態度 ワーク シート

	生活の創造 これからの生活を創造する	察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 様々な人々と協働し、青年期の自立と家族・家庭について課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 a: 人の一生について自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解し、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 b: 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定、解決策を構想、実践を評価・改善し考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 c: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について課題の解決に主体的に取り組んだり振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
--	-------------------------------	--	--	--	--

令和7年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	情報	科目名	情報 I	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年
科目の 概要と 到達目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を身につける。						
教科書	「高校情報 I Python」 (実教出版)						
副教材	「ベストフィット 情報 I」 (実教出版)						
評価 の 観 点 ・ 内 容	a : 知識・技能		b : 思考・判断・表現		c : 主体的に学習に取り組む態度		
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。		事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。		情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。		
主な 評価 方法	・ワークシート ・制作物 ・定期考査		・ワークシート ・制作物 ・定期考査		・授業中の学習態度 ・振り返り (生徒自己評価) ・グループ活動や発表の状況		

※ 上記に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A・B・Cの3段階) にまとめます。また、学年末に観点別学習状況の評価 (A・B・Cの3段階) 及び評定 (1～5の5段階) にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学 期	単元名・学習内容	評価基準	評価方法		
			知 (a)	思 (b)	主 (c)
1 学 期 前 半	第1章 情報社会 01～06 ①問題を発見・解決する方法 ②情報社会における個人の 果たす役割と責任	a: 情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けている。情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性について理解している。情報モラル及び情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。 b: 情報に関する法規や制度及びマナーの意義について、それらの背景を科学的に捉え、考察することができる。情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察することができる。 c: 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする。	ワークシート 制作物 中間考査	ワークシート 制作物 中間考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
1 学 期 後 半	第2章 情報デザイン 07～09 ①情報デザインと表現の工夫 ②Web ページと情報デザイン 第3章 デジタル 10～14 ①デジタル情報の表現	a: メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴、情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解している。効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方を理解している。 b: メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択することができる。 c: 情報モラルなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 期末考査	ワークシート 制作物 期末考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
2 学 期 前 半	第3章 デジタル 15～16 ②コンピュータの構成と性能 第4章 ネットワーク 17～24 ①ネットワークとプロトコル ②情報システムとデータの管理	a: コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算について理解している。 b: 情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用することができる。 c: コンピュータの処理に関する情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとし、情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 中間考査	ワークシート 制作物 中間考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
2 学 期 後 半	第5章 問題解決 25～29 ① 情報通信ネットワークの 仕組みと役割 ② データの収集・整理・分析 ③モデル化とシミュレーション	a: 情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解している。データを収集・整理・分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付けている。 b: データの適切な取り扱いに留意してモデル化やシミュレーションを行い、データを問題の発見・解決に活用したりすることができる。 c: 情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 期末考査	ワークシート 制作物 期末考査	学習態度 振り返り グループ活動 発表
3 学 期	第6章 プログラミング 30～35 ①アルゴリズムとプログラミングの基本 ②探索アルゴリズムと整列アルゴリズム	a: アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付けている。 b: 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用することができる。 c: 問題解決にコンピュータを積極的に活用し、結果を振り返って改善しようとすることを通じて情報社会に主体的に参画しようとする。	ワークシート 制作物 期末考査	ワークシート 制作物 期末考査	学習態度 振り返り グループ活動